



備中国分寺五重塔前を駆けるランナー

招待選手の坂本直子さん（天満屋女子陸上競技部）がスターターを務めたフルマラソンを皮切りに、ハーフマラソン、4.6kmと順次スタート。色とりどりのシャツを身にまとったランナーが、歴史ロマンあふれるコースへと飛び出していきました。沿道には多くの人が立ち、『広報そうじゃ』2月号の付録の応援用小旗を振るなどして、「がんばって」と盛んな声援を送っていました。

ゴールとなった同スポーツセンターでは、ランナーらに豚汁やコーヒー、甘酒などが振る舞われ、ランナーの体を温めていました。

フルマラソンの総合トップは、2時間30分48秒の藤田悠さん（山口県）、ハーフマラソンの同トップは、1時間9分00秒の岸本朋紘さん（倉敷市）、4.6kmの同トップは、13分33秒の多田要さん（倉敷市）。制限時間内の完走は、フルマラソンが1534人、ハーフマラソンが1561人、4.6kmが3581人でした。

**お礼** >>> そうじゃ吉備路マラソンの開催にあたり、準備や運営、沿道警備、給水、駐車場などのボランティア、沿道からの応援、交通規制、物的な支援など、大会のスムーズな運営や盛り上げにご協力いただきありがとうございました。



# 2010 そうじゃ吉備路マラソン 7415人が吉備路を駆ける

## 写真特集

2月28日、総社市スポーツセンター周辺を発着点にフルマラソン、ハーフマラソン、4.6kmの3種目で、そうじゃ吉備路マラソンが開催され、7415人のランナーが早春の吉備路を駆け抜けました。

①②総社の西山地区の応援。応援メッセージを描いた縦看板と子どもたちが持つ横幕とともにランナーに熱い声援を送った。③泉地区で小旗を振りながら応援する子ども。④備中国分寺の給水所。マラソン当日、約1000人のボランティアが給水や駐車場、沿道警備などで大会を支えた。⑤ゴールする選手たち。⑥アクアセンター吉備路前で小旗を振りながら応援する皆さん。⑦4.6kmのランナー。3種目中でも最も多い参加があり、家族で楽しく走っている光景が多く見られた。⑧市観光協会による総社市オリジナルの緑茶「うまそう茶」が発売された。国産の茶葉と高梁川の伏流水で製造した緑茶だ。⑨応援用にと市内の全幼稚園と全保育園の園児が約1000本の小旗を作った。写真は服部幼稚園。⑩前日からランナーらに振る舞う豚汁の準備をする体育協会バレーボール部の皆さん。地元企業や農家、商店から提供された食材で、約7000食を用意した。

